

# なぜEmerging Managersが重要なのか？

- Emerging Managers(新興運用会社)は投資機会が豊富な場所で起業する。
- 起業したEmerging Managersはアセットオーナー(機関投資家)の信頼を勝ち取っている。



上場株投資  
(ロング・  
ショート)

上場株投資  
(ロングオン  
リー)

PE  
(バイアウト)

PE  
(VC)



# Showcased EM 1/5 (計15社 順不同)

会社名	起業の経緯・経歴	運用戦略・特徴
<b>武士道アセットマネジメント</b> 代表取締役社長 杉山 賢次氏	三菱UFJモルガン・スタンレー証券出身。独立系ヘッジファンド暁翔キャピタルを経て2018年創業。	<b>日本株ロングショート/マーケットニュートラル戦略</b> 特に <b>中小型企業の成長力・割安感に注目</b> し、「ファンダメンタル・アプローチ」に基づき、独自の分析モデルを駆使し、投資判断を行う。
<b>MuTaka Capital</b> 代表取締役社長 武藤崇史氏	ゴールドマン・サックス証券、スパークス、ホライゾン、Point72を経て2018年創業。	<b>日本株ロング・ショート戦略</b> ファンダメンタルズのボトム・アップ分析を駆使し、 <b>マクロ経済の景気動向等を組み合わせながらポートフォリオを運用</b> 。
<b>トライヴィスタ・キャピタル</b> 代表取締役 後藤正樹氏	ゴールドマン・サックス証券でデリバティブ&トレーディングリサーチのアジアヘッドや、モルガン・スタンレー証券で自己トレーディング部門に従事。みさき投資出身。2020年創業。	<b>日本株ロングオンリー戦略</b> <b>主に中小型株式に投資</b> 。長期的な視点で企業の本質的価値を評価した上で集中投資。 <ul style="list-style-type: none"> <li>2022年、FCTの海外AOマッチングを通じて、運用残高約200兆円の<b>世界最大級の政府系ファンド、ノルウェー銀行インベストメント・マネジメントから投資委託</b>。中小型株を熟知した運用者を探していたノルウェー銀行のニーズに合致。</li> </ul>
<b>ソラリス・マネージメント</b> 代表取締役 戸矢 博明氏	□蔵省(現財務省)、ゴールドマン・サックス、香港ペースのヘッジファンド出身。2018年産業□新投資機構(JIC)代表取締役専務CIOとして官民ファンドの立ち上げを主導。2021年運用開始。	<b>日本におけるファンディング・ギャップ(※)への投資</b> <b>ミスプライシングに集中投資</b> 。アセットクラスは株式(上場、一部 Pre-IPO)及びディスカウントになった債券(※価格づけが非合理的になりやすい分野。新興企業、コーポレート・ガバナンス問題で安値で放置されている企業など)。世界の ESGの潮流によって事業の拡大が期待できる企業に優先的に投資。

# Showcased EM 2/5 (計15社 順不同)

会社名	起業の経緯・経歴	運用戦略・特徴
<p><b>ありあけキャピタル</b> 代表取締役 田中 克典氏</p>	<p>GS出身。2020年会社設立。</p>	<p><b>エンゲージメント投資戦略</b> <b>地方銀行に特化して投資</b>。企業価値向上にむけて友好的なエンゲージメントを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北國FHD、千葉興業銀行、スルガ銀行などに投資実績</li> </ul>
<p><b>インベストメントLab</b> 代表取締役 宇根尚秀氏</p>	<p>元GSのデリバティブトレーダー・マネージングディレクター出身。 2015年ゆうちょ銀行に転じ、常務執行役員としてアセットアロケーション・ファンド投資選定に関与。 2019年JPインベストメントCOO、2020創業。</p>	<p><b>非上場日本株ベンチャーキャピタル戦略と上場日本株マーケットニュートラル戦略</b> 上場・非上場問わず成長企業への投資と支援に取り組んできた実績が強み。</p>
<p><b>カディラキャピタルマネジメント</b> 代表取締役社長 坂本 一太氏 CIO 清水裕氏</p>	<p>坂本氏:2015年スパークス入社、海外機関投資家マーケティングを担当。2022年カディラを設立 清水氏:日系資産運用会社でアナリスト業務に従事した後、2005年からスパークス、2012年からFM。日本株サステナブル投資戦略を立ち上げ、海外年金・基金等多数の受託実績。2023/7、カディラキャピタルマネジメント取締役CIO・FM就任</p>	<p>サステナブル日本株投資戦略、ロングオンリーでサステナビリティとエンゲージメントを重視した投資戦略。上場株でのインパクト投資手法の普及に貢献。コーチング手法を用いたエンゲージメントによって投資先企業をサポート。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2024年1月欧州籍公募投信運用開始予定。欧州投資家を中心に資金を募る</li> </ul>

# Showcased EM 3/5 (計15社 順不同)

会社名	起業の経緯・経歴	運用戦略・特徴
<p><b>IAパートナーズ</b> 代表取締役社長 村上 寛氏</p>	<p>住友銀行出身。リーマン・ブラザーズで日本のM&amp;Aアドバイザー統括マネージングディレクター等を経て、サーベラスジャパンにてPE投資のソーシング担当常務執行役員。2009年DBJ-IA設立と同時に代表取締役社長に就任。</p>	<p>民間のパイアウト資金が不足している<b>製造業等の中堅企業、グローバルニッチトップ企業</b>を投資対象。SDGsやESGの観点も包含しながら、投資期間を超えた持続的な成長を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>JDSC</b> (AIやデータサイエンスを活用したIT開発・コンサル) 及び <b>コーチ・エイ</b> (コーチングによる人材育成・組織開発・リーダーシップ開発) と戦略的な業務提携。投資先企業にJDSCのAIソリューションやコーチ・エイの人材・組織開発支援を展開</li> <li>• <b>JICのLP投資先ファンド</b> (2022)</li> </ul>
<p><b>D Capital</b> 代表者 仁木 準氏 木畑 宏一氏 梅津 直人氏 重光 孝司氏</p>	<p>仁木氏:GS出身。マーチャント・バンキング部門にて投資業務に従事。 木畑氏:医師、マッキンゼーを経て、ユニゾン・キャピタルでヘルスケアセクター立ち上げに貢献。 梅津氏:シティ、SMBC日興を経てユニゾン・キャピタルにてヘルスケア投資を指揮。 重光氏:GS、ユニゾン・キャピタルを経て、トパーズ・キャピタルの立ち上げに貢献。</p>	<p><b>「DX×パイアウト」をコンセプトに掲げ</b>、投資とデジタルの人材から構成されるPE。「人・テクノロジー・資本をつなげ、社会の心を動かす」というPurposeのもと、事業承継や事業再編、再構築に取り組む中小企業に投資し、経営とDXによる企業価値向上を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在、315億円 of のファンドを運用</li> </ul>
<p><b>フロンティアキャピタル</b> 代表取締役社長 CEO兼COO 大西 正一郎氏</p>	<p>弁護士登録、1997年パートナー弁護士に就任。2003年産業再生機構、2007年フロンティア・マネジメント設立、JAL再生TF等歴任。2022年代表取締役社長 CEO兼COO 就任。</p>	<p>金融機関等から種類株式で募った資金を株式会社として直接投資し、当事者として経営執行及び経営人材の派遣を行い、投資先企業の<b>長期的な企業価値向上を図る</b>ことを目的とした投資事業。 中長期的にわたり投資先企業のビジネスモデルの<b>変革</b>や業界再編による成長を図ることを企図。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ゆうちょ銀行等による出資(2023/1)</b> (アンカー ゆうちょ銀行、福岡銀行、横浜銀行)</li> </ul>

# Showcased EM 4/5 (計15社 順不同)

会社名	起業の経緯・経歴	運用戦略・特徴
<p><b>マラトンキャピタル パートナーズ</b> 代表取締役 小野 俊法氏</p>	<p>独立系大手不動産ファンドでキャリアをスタートし、個人で創業した企業をEXITした後、ACAおよび日本グロースキャピタルにおいて数多くのスモールバイアウトを実行し高い実績を上げた。</p>	<p>事業の承継、新事業創造等により、新たな成長・発展を目指す中堅・中小企業に対して、バイアウト投資及びハンズオン支援により、企業価値向上を行うファンド。 創業者が代表理事を務める一般社団法人日本プロ経営者協会にて、他ファンドにはない1,700名以上のハイレベルなプロ経営者プールを保有するのが特徴。 国内で唯一、海外でのシリアルアントレプレナー経験者が創業し、国内スモールキャップ (※)業界では群を抜いた投資経験数及びリターントラックレコードを記録した起業家が創業した独立系の投資会社。(※営業利益で5億以下、売上50億以下程度の中小企業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小機構の投資ファンド(マラトン1号投資事業有限責任組合 2023/2)</li> </ul>
<p><b>Fiducia</b> 代表者 柴田 拓美氏 清水 時彦氏</p>	<p>柴田氏:野村ホールディングスCOO、日興アセットマネジメントCEOなどを歴任。2020年6月Fiducia創業 清水氏:GPIF投資戦略部長、ゆうちょ銀行常務執行役員、JPインベストメント社長などを歴任。2020年ゆうちょ銀行退職、同年6月Fiducia創業。</p>	<p><b>グロース投資戦略(テクノロジー企業)</b> 日本発のリアル・テクノロジー(リアル・テック)およびヘルスケアの分野での革新的でグローバル展開可能な技術やビジネスのグロースステージを主な投資対象とし、ハンズオンによる企業成長の実現を目指す。マイノリティ投資が基本となるが、ケースによってはバイアウト投資も実行。2023年12月末現在で8社に投資。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1号ファンドが2022年1月末に32.6億円でファースト・クローズ、2023年12月末で45.5億円、資金調達は継続中</li> </ul>
<p><b>KUSABI 有限責任事業組合</b> 代表パートナー 渡邊佑規氏</p>	<p>三井住友銀行出身。行内公募を活用し2008年よりVCキャリア。グロービスCを経て2021年独立。</p>	<p><b>シード・アーリー期のリード投資・ハンズオン支援</b>により1兆円企業の輩出を目指す。独自の<b>アクセラレーションプログラム(KUSABI α)</b>による<b>起業創出</b>も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1号ファンドをローンチ(2023/3、106億円)ファーストアンカーLPIはSMBC。<b>中小機構、JIC</b>ほかでFinalクローリング済。</li> </ul>

# Showcased EM 5/5 (計15社 順不同)

会社名	起業の経緯・経歴	運用戦略・特徴
<p><b>iSGS インベストメントワークス</b> 代表パートナー 佐藤真希子氏</p>	<p>サイバーエージェントを経て、2006年サイバーエージェント・キャピタルで国内のシード期のスタートアップベンチャー投資に9年間従事。2016年6月設立、代表パートナーに就任。(独立系ベンチャーキャピタルにおける日本初の女性パートナー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2本のファンドを運用。1本目のファンドは<b>設立5年半で元本をリクープ</b></li> <li>• トータルで<b>90社以上に投資</b>(2号ファンドは<b>46%が女性起業家</b>)</li> <li>• 名古屋・山梨県の認定VCに指定</li> <li>• 1号ファンド・2号ファンドともに「生活の革新者であれ」という投資ポリシーをもとにインターネット産業にとどまらない、医療・飲食・小売・物流・農業・教育などの産業にテクノロジーの力で変革をもたらす幅広いスタートアップに対する投資を実行</li> <li>• 社会課題の解決(SDGs)を意識したスケールとインパクトが両立する投資先を選定</li> </ul>
<p><b>MPower Partners</b> ゼネラル・パートナー キャシー松井氏 村上由美子氏 関美和氏</p>	<p>1994年ゴールドマン・サックス証券に入り副会長、チーフ日本株ストラテジストなどを務める。「ウーマノミクス」を提唱。OECD出身の村上由美子氏、翻訳家の関美和氏とともに2021/5設立。</p>	<p><b>ESG(環境・社会・企業統治)を重視したファンド</b>で、国内10社、海外3社に投資。うち4社が女性創業者。ベンチャーキャピタル業界におけるESG重視型の投資の推進を志向。</p>